

令和8年3月10日

江南市議会議長

中野裕二様

建設産業委員長

岡地清仁

建設産業委員会行政視察報告書

令和8年1月16日（金）に下記事項について、愛知県西尾市を行政視察しましたが、その結果は別紙のとおりです。

記

視察事項

愛知県 西尾市 「中心市街地活性化事業について」

# 目 次

## 愛知県西尾市

○市勢等について .....	1
○議会等について .....	2
○中心市街地活性化事業について .....	3
1 中心市街地活性化事業の概要について .....	3
2 にしおまちなか未来ビジョンについて .....	5
3 4つの基本方針と実績プロジェクトについて .....	7
4 まちなか市民プロジェクトについて .....	8
5 実現までのロードマップについて .....	9
6 質疑応答 .....	11
7 委員会所感 .....	15

# 愛知県西尾市

## ○ 市勢等について

### 1 市勢（令和8年2月1日現在）

(1) 人口	168,924	人
(2) 世帯数	70,028	世帯
(3) 面積	161.22	km <sup>2</sup>

### 2 令和7年度一般会計当初予算

#### 歳入

区分	予算額（千円）	構成比（%）
市税	32,329,381	43.4
地方譲与税	601,000	0.8
利子割交付金	19,000	0.0
配当割交付金	240,000	0.3
株式等譲渡所得割交付金	200,000	0.3
法人事業税交付金	600,000	0.8
地方消費税交付金	4,500,000	6.0
ゴルフ場利用税交付金	27,000	0.0
自動車取得税交付金	1	0.0
環境性能割交付金	180,000	0.3
地方特例交付金	260,000	0.3
地方交付税	2,200,000	2.9
交通安全対策特別交付金	20,000	0.0
分担金及び負担金	239,691	0.3
使用料及び手数料	787,680	1.1
国庫支出金	10,608,628	14.2
県支出金	5,101,759	6.9
財産収入	457,348	0.6
寄附金	2,201,002	3.0
繰入金	3,744,126	5.0
繰越金	1,500,000	2.0
諸収入	2,823,384	3.8
市債	5,960,000	8.0
歳入合計	74,600,000	100.0

## 歳 出

区分	予算額 (千円)	構成比 (%)
議会費	393,485	0.5
総務費	8,634,326	11.6
民生費	27,641,856	37.1
衛生費	8,558,939	11.5
労働費	56,612	0.1
農林水産業費	1,724,539	2.3
商工費	1,395,818	1.9
土木費	6,747,009	9.0
消防費	2,706,051	3.6
教育費	13,084,671	17.5
災害復旧費	10,000	0.0
公債費	3,576,693	4.8
諸支出金	1	0.0
予備費	70,000	0.1
歳出合計	74,600,000	100.0

## ○ 議会等について

### 1 常任委員会

企画総務委員会 8人 厚生環境委員会 8人 文教交流委員会 7人  
 経済建設委員会 7人 予算決算委員会 30人

2 議会運営委員会 8人

### 3 特別委員会

設置なし

4 議員定数 30人

### 5 会派別

みらい創政会 (9人)、新しい風 (8人)、公明党西尾市議団 (2人)、  
 日本共産党西尾市議団 (1人)、減税日本にしお (1人)、  
 れいわ新選組西尾 (1人)、立憲民主党西尾 (1人)、参政党西尾 (1人)、  
 無所属 (6人)

## ○ 中心市街地活性化事業について

### 1 中心市街地活性化事業の概要について

#### (1) 背景・目的

西尾駅周辺の中心市街地（まちなか）は、古くは西尾城城下町として商店街を中心に栄えてきたものの、空き店舗の増加等によりまちの空洞化が進み近年そのにぎわいが失われてきている。

そこで、20年、30年先の未来を見据えた上で今後の10年間でどんなまちなかを目指していくのかを行政だけでなく市民・事業者・各団体等、地域の共通認識として設定し、公民が一体的・横断的に取り組んでいくための「指針」として、「にしおまちなか未来ビジョン」を策定した。

#### (2) まちなかを活性化する理由

西尾市のまちなかは公共施設や商業施設などの都市機能が集積し、人々が行き交う西尾市の中心拠点となっている。また、西尾城や祇園祭などの歴史文化観光資源を有する西尾市の顔や玄関口としての役割も担っている。

にぎわいの失われてきているまちなかを、人々が暮らし、活動し、訪れるエリアとして再び活性化していくことで、エリアの魅力を高め、民間の投資を呼び込む循環を創出していく。そして、中心拠点であるまちなかを盛り上げることで、結果として市全体としての暮らしの質や地域経済を向上させ、西尾市が持続可能なまちになっていくことを目指す。

#### (3) 目指すまちなかの未来像

まちなかに暮らす人・活動する人・訪れる人みんながワクワクし、歩きたくなる・期待のある・来たくなる。目的地が増え、来訪者が増え、まちの魅力・価値が向上し、暮らしの質が向上することで人口集積が維持される好循環を生み出していき、そんな未来のまちなかを目指していく。

#### (4) まちなかの現状・課題について

##### ①人口について

西尾市全域において、現段階では現状維持となっているものの、将来的な人口減少が見込まれており、年齢区分で見ると高齢化率は既に25%を超えて今後さらなる上昇が見込まれている。

一方で、まちなかに限って見るとマンション建設はあるものの既にエリア全体で人口減少が進んでおり、平成11年と比較して10%以上の減少となっている。

##### ②店舗数について

西尾市全域における「卸売業・小売業」の状況としては、事業所数・従業者数・商品販売額ともに増加または現状を維持しているが、まちなかの商店街店舗数を見ると減少を続けており、この30年で半減となっ

ている。

### ③地価について

長期的に見ると西尾駅前という市内で最も価値のあるエリアにおいて、地価が下落傾向にあり、西尾市全域においても近隣市と比較して伸び率が鈍化している。

### ④財の地域外への流出について

「RESAS 地域経済分析システム」によると、他地域に比べ第3次産業の生産指標が低くなっているものの、第2次産業の付加価値額や雇用者所得は高い水準となっている。

一方で、民間消費が約3割流出と低い水準となっており、製造業を中心として稼いだ財が地域外へ流出していることが地域経済の弱みとなっている。

### (5) ビジョンの対象エリアについて

ビジョンの対象エリアは、上位計画である「立地適正化計画」における「都市機能誘導区域」と、平成13年「中心市街地活性化基本計画」における「中心市街地」エリアをもとに設定している。

商店街や歴史公園、岩瀬文庫など歴史的な城下町を含む、観光・文化・商業等の拠点となる西尾駅周辺のエリアを盛り上げることで西尾市全体を活性化していく。

### 【対象エリア】



## 2 にしおまちなか未来ビジョンについて

### (1) ビジョン策定の考え方

みんなが関わり、みんなで創る、にぎわいのあるまちなかを目指して策定している。

まちの未来を考えた時、住んでいる人にとっての利便性や価値が高まることで、誇りを持てるようになったら素晴らしく、「にぎわいのあるまちなか」になっていくためには、西尾市に暮らすみんながまちのこれからを考え、参加し、常に刷新していくことが必要だと考える。

### (2) ビジョンの位置付け

本ビジョンはにしお未来創造ビジョン（第8次西尾市総合計画）、都市計画マスタープラン・立地適正化計画を上位の計画として位置付け、その他の各種関連計画についてもまちなかを対象にした事業については、本ビジョンをもとに連携し分野・所管組織等を横断した取組を推進している。

### (3) 計画期間

令和6年度から令和15年度まで

### (4) ビジョン策定のプロセス

約2,400人がビジョン策定に関わっている。まちなかの未来を自分ごととして考えてもらうため、そして自ら動いていく人を増やし巻き込んでいくために、「市民の関わり」を重視したプロセスでビジョンを策定してきた。

アンケート結果等をもとに、今後の議論のたたき台となる方針を見やすく手に取りやすい小冊子の形で示した「中心市街地活性化ビジョン Ver. 0」を作成し、令和5年度は、多種多様な方々から具体的な意見を聞き、公民の関係者からなる策定委員会等で協議を進めてきた。

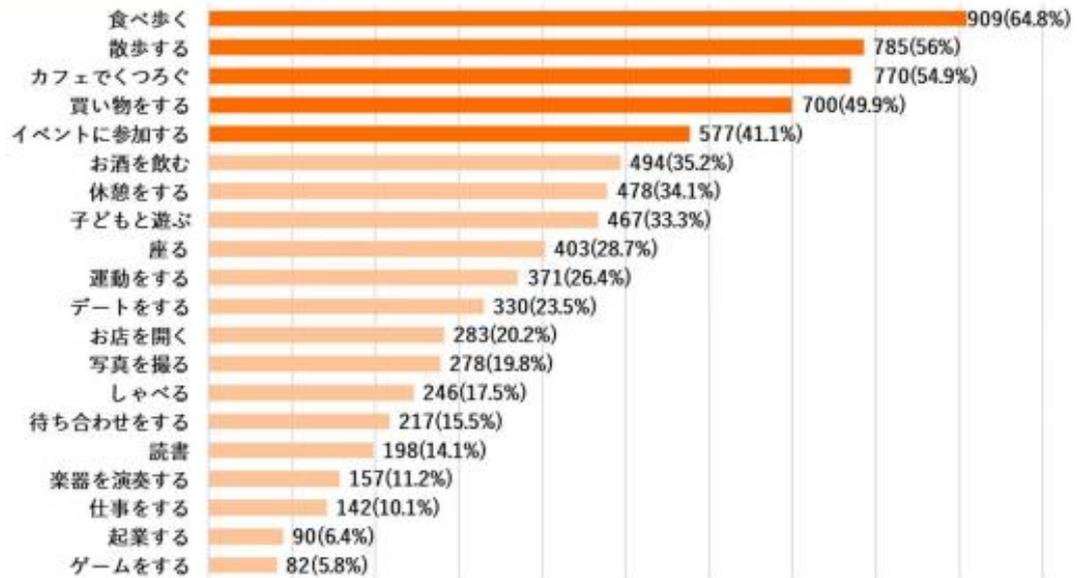
「この方針がいいね」「自分だったらこう思う」「こんなことができるかも」といった多くの意見を聞いてきた。

#### ①LINEを活用した市民アンケート実施

友だち登録者数10万人を超えた「西尾市公式LINE」の強みを生かすとともに、多くの方が使い慣れているLINEを活用し、試験的に「オープンチャット機能」によりまちづくりへの意見を聞いた。

「中心市街地活性化ビジョン Ver. 0」への意見だけでなく、お知らせやイベント情報、おすすめスポットの紹介やまちなかに関する雑談など、LINEのアカウントがあれば匿名で気軽に参加することができる。

中心市街地でしたい行為



【その他意見】

映画を見る/ヨガをする/趣味などの講座に参加/ドッグラン/レンタル畑/レンタル屋台村/何もない空間でくつろぐ

②公民の若手によるワーキンググループでの内容協議



③意見交換のたたき台として「西尾市中心市街地活性化ビジョン Ver. 0」を作成

④社会実験「BOXPARK エキニシ」

令和5年9月までの期間限定で西尾駅西多目的防災広場に仮設コンテナを設置し、将来的に中心市街地での出店を検討されている方やまちなかを盛り上げたいという方がお試し出店やイベント等の場として活用できるスペースとして開放した。

なお、飲食・物販を中心に60者以上の方が利用し、1万人以上の来訪者、1,000万円以上の売上を創出したほか、3割以上の出店者からまちなかでの空き店舗紹介希望があった。

⑤トークイベント、ヒアリング、ワークショップによる対面での意見交換

⑥公式 Instagram「#にしおまちなか」・LINE オープンチャット開設  
Instagram を活用し、中心市街地活性化の動きやまちなかに関するお知らせ、おすすめのお店・スポットの情報やイベント情報などを発信している。  
また、西尾市からのお知らせだけでなく、店舗や民間団体のイベント情報なども掲載している。

⑦にしおまちなか未来ビジョン策定

### 3 4つの基本方針と実績プロジェクトについて

(1) まちなかの魅力を創り守り育てる

訪れたいまちなかにするため、新規出店等を誘致し新たな魅力を創出するとともに、商店街の店舗、抹茶や歴史文化といった既存の魅力についても維持・強化を図っていく。

①西尾未来共創拠点運営事業

まちづくりの活動拠点となる西尾未来共創拠点「ニコラボ」をまちづくり団体や市民などの人・モノ・情報等が集い交わり発信する場として西尾駅高架下に開設し、「何かやってみたい」という想いに伴走することでまちなかに新たな価値を創出していくとともに、セミナーやワークショップの開催等により未来の西尾を担っていくまちづくり人材を育成する。

②空き店舗等活用事業

公民の連携により、まちなかの空き店舗等の掘り起こしやオーナーとの活用交渉、出店希望者とのマッチング、店舗改装費の支援、地域との橋渡し、創業等の経営支援、PR 支援等包括的サポートの実施により、目的地となるまちなかの新たなコンテンツを創出していく。

(2) まちなかをみんなの居場所にする

多種多様な人々がまちなかで暮らし、活動し、関わりたくなるような整備や居場所だと感じられる仕組みを構築し、人とまちがつながり、交流が生まれるまちなかを目指していく。

①公共空間活用事業

広場や公園、水辺、歩道等のまちなかにおいて一番多くの面積を占める不動産である公共空間の低未利用部分を「市有財産民間提案制度」・「まちなかにぎわいパートナー事業」等の支援制度により、イベントや出店等の「場」として長期・短期の民間での活用を促し、多種多様なまちなかでの活動を創出していく。

(3) まちなかのアクセス・回遊性を強化する

住民が快適に暮らせるように、来訪者が楽しく便利に回れるように、移動の選択肢を増やし、歩きたくなる、回遊したくなるようなしかけをつくるとともに、地域外から自動車・鉄道でまちなかに訪れやすいようアクセス強化も検討し、人と経済の循環を促していく。

①まちなか周遊モビリティ事業

まちなかの各スポットを周遊する際の移動手段として、シェアサイクルや電動キックボード、ライドシェア、自動運転など先進技術の活用も含めた調査・研究を実施し、社会実験等をもとに最適なモビリティの導入を検討していく。

(4) まちなかの魅力を内外へ発信する

行政だけでなく市民や来訪者などまちをあげて SNS 等のツールを活用した情報発信に取り組むことで地域内外への PR を促進し、誰かに伝えたい魅力的なまちなかを目指していく。

①にしおまちなかプロモーション事業

運用中の Instagram や YouTube 等の動画も含めた SNS を活用し、マーケティング分析等をもとにしたまちなかの魅力的な人・モノ・スポットの戦略的な情報発信を行う。

また、「にしおイズム」との連携等、市民自らが情報発信の担い手となる仕組みづくりを実施し、シビックプライド醸成のきっかけをつくる。

## 4 まちなか市民プロジェクトについて

西尾市はワーキンググループメンバーが主体となって考えた「やってみよう！」プロジェクトを西尾未来共創拠点「ニコラボ」での伴走支援をベースに次々と実現していく。

(1) にしおまちなか食べ飲み歩きイベント

まちなかのお店を知ってもらい、回遊してもらうために、チケット制等の「食べ飲み歩きイベント」を実施した。お店を持ちたい人発掘の機会にもしていきたいと考えている。

(2) みどり川水遊び大作戦～ミズベリング～

まちなかの水辺空間であるみどり川において、宝探し掃除イベント等を開催することで楽しく気軽に水に親しめる空間を目指していく。

この機会にイベント主催者等へのアンケート、AI カメラ分析による検証を実施し、将来的なみどり川空間の整備を念頭に使われ方の検証を行った。

(3) 歴史×〇〇まち歩き

学芸員の解説で城下町の歴史を深掘りするまち歩きを実施した。和菓子ウォークなど歴史×〇〇ウォークツアーとしてターゲットに合わせた他分野の展開が可能となる。

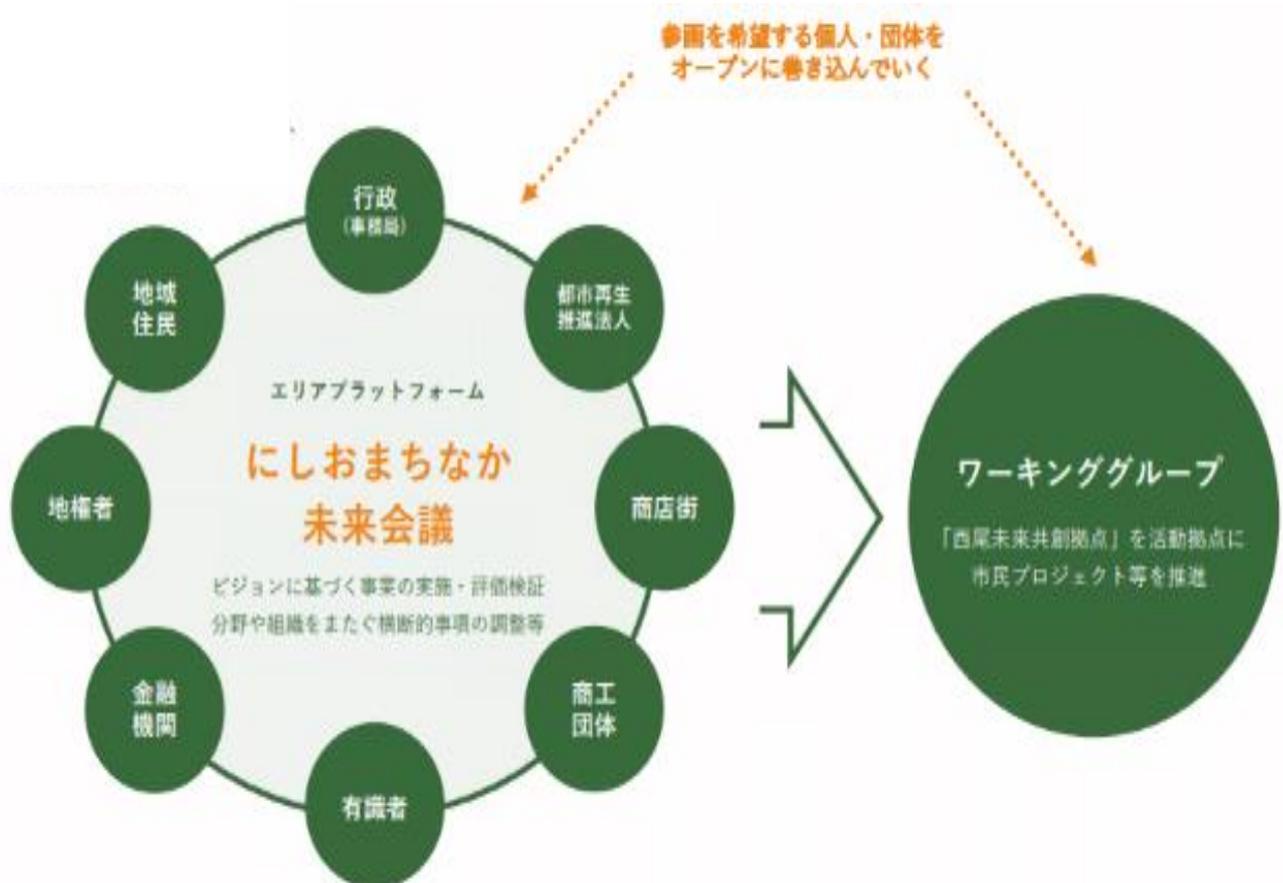
(4) #にしおまちなか

まちなかの魅力を SNS 等で市内外へ発信する。インバウンドを狙った外国人インフルエンサーとの連携等も実施し、外の目線での西尾の魅力発見・再確認の機会を創出していく。

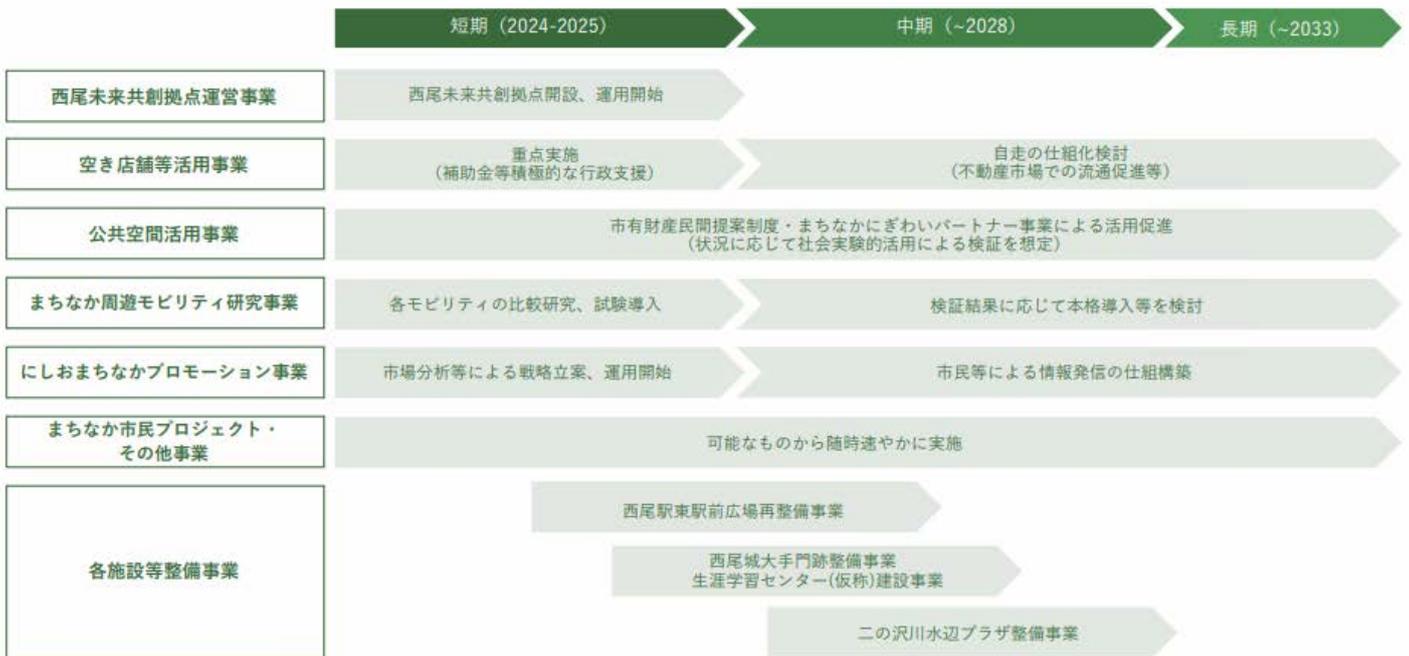
5 実現までのロードマップについて

(1) 推進体制について

公民の関係者が一体となって連携し取り組んでいくため、エリアプラットフォーム「にしおまちなか未来会議」を創設した。行政は事務局を務めるとともに、副市長・各関係部長が参画することで、行政内部や公民の組織を横断した取組を推進していく。



## (2) ロードマップについて



## (3) 評価検証・アップデート方法

「にしおまちなか未来会議」により毎年度の進捗状況の評価検証を行い、社会状況の変化に合わせて柔軟にビジョンをアップデートしていく。また、まちなかでどんな変化が起きたか、これからどんなことが起こっていくのかを年次報告書の形で発行することでまちなかの動きをPRしていく。

## (4) 今後について

10年、20年以内に現在の市域全体において現状レベルの行政サービスを維持するのは難しくなる。

そのため、中心市街地に魅力ある目的地(店舗等)を増やすことは、地域内外からの訪問者が増加し、にぎわいを創出することで、中心市街地全体の魅力・エリア価値の向上、地域住民の「暮らしの質」の向上につながると考えている。

そして、さらなる投資(出店等)の増加、人口集積の維持、「消費」の受け皿の増加につながり、地価の向上・税収の増加・地域経済収支の改善など正のスパイラルによる持続可能な中心市街地へとつながっていく。

このように、公民が中心市街地でしっかりと「稼ぐ」ことができるようになることが重要だと考えている。

今後は、ソフト面の効果が少しずつ現れてきたため、西尾駅東駅前広場の整備事業の検討を始めるなど、ハード面の整備にも着手することで、より高い効果が得られるものと考えている。

## 6 質疑応答

○頓挫していた駅西再開発事業が、市長が変わったことで始まったとの話があったが、当初から市長の意向であったのか。

●市長がマニフェストで挙げていた。また、商工振興課としてもやっていきたいと考えていたところだったので本当にタイミングとしても事業を進めやすかった。

○市長の方針と一致していたのか。

●そのとおり。過去にハード面の整備で失敗しており、20億円かけて建物ができ、まちは綺麗になったが、人がいなくなったということがあったため、ハード面の整備からではなく、ソフト面の整備から進めたいというのは、商工振興課からお願いをし、まずはソフト面の小さな動きから始めることとなった。

○LINEの登録人数が人口17万人のうち15万人程度との説明があり、衝撃を受けたが、人数を増やすコツはあるのか。

●LINEを使った経済対策を実施していて、LINEのシステムから取得できるクーポン事業を行った。そのため現金給付ではなく、LINEに登録しないと経済対策を受けることができないというのがあった。併せて、西尾市のゆるキャラのスタンプを配信するなど、少しずつやってきた結果であると考えているが、一番増えた要因はクーポン事業である。

○社会実験のところで、AIカメラ分析の説明があったが、映像データの中からどういった項目を評価対象にして、どのような検証をしたのか。

●購入したAIカメラはいわゆる防犯カメラだが、得られる項目はAIが検知をして「この時間に人が何人いたか」という状況を可視化してくれるものになっている。それ以上の情報が得られるわけではないが、このカメラのおかげで「何時に人が何人ぐらいいるか」「大体どれぐらいの年代の方がいるか」「どんなことをしているか」といったことが定量化できた。

○可視化までしてくれるということだが、分析はどのように行っているのか。

●分析は市の職員が行っている。

○西尾駅周辺の土地というのは行政の土地なのか。

●公共空間は各課の所管となっているが、民間が持っている土地もある。駅周辺で言うと名鉄の土地が多くある。

○西尾市のようなまちづくりを江南市がやろうとすると、担当課はノウハウがないため商工会議所に振って、商工会議所は市がやってくれということで、お互いが何もやらないということがあがるが、西尾市の場合は市のほうでプロジェクトが立ち上がったということか。

●担当職員の熱量が重要とは考えるが、しっかり現場に出て話をしていけば、商工会議所の中にも、熱心に動く人は絶対にいる。また、商店街も同様に動かないおじいさんもいれば、たくさん動いてくれる2代目の方もいるので、そういったプレイヤーをどれだけ見つけるかというところから始めた。その他に市から補助金を出していないまちづくり会社があり、そこにつながれているのは大きいと考えている。

○西尾市には大きな企業があると思うが、そういった企業との関わりはあるか。

●そこが課題で、小さな動きを増やし、小さい点をどんどん打ってきたが、岡崎市などの先進地の話を聞くと、この先はしっかりと民間と組まなければいけないと言われている。

○それは結局、出資がほしいということか。

●そのとおり。1件、飲食店ができて、投資額というのは500万円から1,000万円程度であるため、しっかりと民間の投資を引っ張ってくることを今後はやっていくべきであり、課題でもある。

○未来ビジョンを推進するにあたり、市の横断的な体制づくりの中で部を超えた連携、人員の配置、市長を含めた意思決定のプロセスなど、多岐にわたって課題があったと思うが、民間と市民も巻き込んだ形でどのようにそれぞれが役割を持ち、リーダーシップを発揮し進めていったのか。

●庁内の話でいくと、市長のマニフェストで進めたいと考えていたものなので、部を超えても各課と話がしやすかった。また、中心市街地の活性化に必要な、ハード面を担う都市計画課や公園緑地課などを座組に入れてビジョンを策定したので、一緒に策定したビジョンだと認識を共有することで対応をしてもらっている。まちなかというのは商工業の振興が強いが、そのほか、観光・福祉・教育など、様々な分野が関わってくるので、各課が実施する事業をビジョンの中に入れていけばお互いにメリットがあり、連携ができると考えている。また、外部の話でいくと、形式的な会議はやっておらず、やりたい方に参加してもらっているため、役割を分担するということはしていない。役割を割り振ると、行政が言ったからとなってしまうため、何がしたいかなどをしっかりと聞き、それをビジョンに入れることで主体的にやってもらうようにしている。そのおかげで、多くの新しい動きが生まれていると感じる。

- 江南市の布袋駅周辺には建物などができているが、江南駅は開発が中途半端な状況になっている。一部の市民でまちづくり委員会を立ち上げたが、行政の言い分では地元からもっと声を上げ、盛り上げてほしいと言われており、ほかにも要因はあるが、一向に進んでいない。また、江南駅周辺は個人で土地を所有している方が多いので、なかなか意見がひとつにまとまらない。江南市としては西尾市のような行政主導か、民間が団結してやっていくのか、どうすればよいかと感じている。考えをお聞きしたい。
- 中心市街地活性化事業を始めた時に西尾市の商店街は機能していなかった。組織はある中で、話をしていてもどうしたいという未来の話が出てこなかった。しかし、西尾市はそれが課題だと考えていたので、解決のため取り組まなければいけないとの中でスタートしている。そして、まちの中に入っていくと事業をやってくれる人もいるため、つながりの中で市が主導で進めてきた経緯がある。この西尾市が行っている小さな取組というのは行政が主導でなくても実施可能な取組と考えている。行政が動かないところの道筋としては民間でどんどん事業をやっていってしまう。投資をして何店舗か造り、既成事実として店舗ができてくると行政も動かざるを得なくなってくる。西尾市は市長が進めていたので、行政主導でできたが、民間から動き出して仕掛けをつくるということも考えられる。
- 市民と民間と行政の3者でまちづくりをしていく組織があるのがよく、市民の方がしたいということを形にできているのが素晴らしいと感じる。このように市民が関わるきっかけ、進めていく上で気をつけることがあれば教えてほしい。
- 仕組みではなくスタンスの話となるが、まちづくりというのは、行政はきっかけづくりやバックアップしかできず、民間の力がないとできないと考える。民間が動くための舞台を整える上でやってみたいとの声があがったことを否定せずに、絶対に形まで持っていくというスタンスで取り組んでいる。普段のワークショップのように意見を言ったけど意味があったのかなと思われてしまうと、協力してもらえなくなるので、その部分は心掛けた。法律は変えられないが、市の内規など変えられるものは変えればよいと考えている。想いが形になるまちは楽しいと思ってもらえ、楽しいと思ってもらえれば、流出を防ぐこともできる。しかしながら、言うだけでなく、しっかりと動いてくださいとも言っている。
- イベントをやるときに歩道や道路を使うことがあると思うが、警察へはイベントごとに申請しているのか、また、すぐに許可が出るのか。
- 市は補助金を出せない代わりに警察など行政が対応すべきところは全てやっている。また、ビジョンの座組の中に警察も入っており、ビジョンを一緒に策定したという共通認識の中で、関連するイベントはスムーズに許可が出ている。社会実験の際には警察にも見に来てもらい盛り上がりの成果を共有した。

○LINE で情報を集めたと言っていたが、ビジョンの詳細版を見ると大変多くの意見があった。この意見の優先順位は誰がどのように判断したのか。

●市民の意見を聞くというのは、いい面もあれば悪い面もあり、何も考えずに言うだけの意見も実際にある。そのため、最初にとったアンケートは分析のためのアンケートとして使った。また、ビジョンの策定委員会の下部に行政と民間の若手メンバーが実行部隊のような形で組織されており、そのメンバーで方向性を事前に持っていたため、市民からの意見に目を通す中で優先順位をつけていた。また、ワークショップをした中で、意見を出してくれた市民の方が「自分でやるので」という意見であれば、必ず採用している。言うだけでなく実際に動いてくれることにも重きを置いていた。

○中心市街地活性化事業に対し、どの程度の予算を使っているか。

●ビジョン策定時はビジョンのデザイン監修のコンサル料で約 600 万円、社会実験の実施費で約 600 万円などの費用がかかり、約 2,200 万円となっている。また、空き店舗活用に対する補助金を 1 件 200 万円で 7 件分予算計上している。今年度は 2,000 万円程度となっているが、補助金は県の補助が 2 分の 1 あるので、そこまで多くの予算を使っているとは思っていない。また、市街地の活用にあたり規制緩和をすることで民間がたくさんのイベントをやってくれることも大きい。

○最近流行りの都市計画は駅を中心にまちをつくることだが、西尾駅の場合は 1 日の乗降客が 9,000 人程度で、人口に比べると駅の利用が少ないと思う。その中で、まちづくりは駅とは切り離して考えたいのではないかと推察するが、駅と商店街等のまちの活性化をどのように考えているのか。

●西尾駅は 17 万人都市の主要駅ではあるので、中心に据えてのまちづくりは無視できないと考えている。まちづくりと公共交通の部署は異なる中で、市全体で見た時に西尾駅以外の場所でもイベントができないかとの意見もあるが、商工振興課としては、まずは西尾駅を中心に進めていきたいと考えている。しかしながら、交通との連携が弱いところは課題とも感じている。

○最初の説明で視察を受けるにあたり事前に江南駅と布袋駅を見に来てくれたとの話があったが、江南駅へ降りた際にどのように感じたか。

●あくまでも個人の感想だが、行きたいと思える店舗もあり、整っていない分、ごちゃごちゃしているのが、逆に楽しそうだなという印象を受けた。また、布袋駅は整っており、投資がされているので、活用する人がいるのであれば、よいまちづくりだと感じた。

- 公共交通の問題が江南市でもあるが、まちの中心をにぎやかにしても、その中心まで来れなければ意味がないと思う。西尾市は公共交通が素晴らしいと感じているが、まちづくりと公共交通を一体的にやっていく工夫はあるか。
- 商工振興課の前は公共交通の担当課におり、再編業務を行っていた。その当時、アンケートを取る中で市民の1割しか公共交通を活用していないことが分かり、どれだけ事業に投資をするかバランスを考えた。その中で行政としては最低限、移動できる選択肢を確保し、直通ではないが、どの地区からも中心にいけるようにすることを心掛けた。
  
- 農業分野では中間管理機構といった仲介となる仕組みがあるが、中心市街地活性化事業の空き店舗の活用において貸したい人と借りたい人をマッチングする仕組みがあるのか。また、どこか参考とした自治体があるのか。
- 商工会議所の若手や商店街、まちの方と顔が見える関係ができてきたときに自然と物件の情報が入ってくるようになった。マッチングについては、商工会議所など様々なところに情報が入ると、行政に伝えてもらうようお願いし、その情報をネットワークの中でみんなと集約し、つなげている。なお、参考にした自治体は特にない。
  
- そういったマッチングにつながる動きに対しても何らかの予算がついているのか。
- 補助金以外の予算はなく、みんなまちのためにやってくれている。

## 7 委員会所感

このたび、西尾未来共創拠点「ニコラボ」にて、中心市街地活性化事業についての話を伺い、その後、空き店舗等活用事業を活用した店舗を見学した。

西尾市における「ニコラボ」は、単なる施設整備にとどまらず、まちづくりに関わる市民や事業者、挑戦したい人々を“つなぐ拠点”として機能しており、特に空き店舗等活用事業における行政の伴走型支援は、大変印象深いものであった。

出店希望者に寄り添い、物件紹介から改装補助、地域との橋渡し、創業支援、PRまでを一体的に行う姿勢からは、職員一人ひとりの高い熱量と使命感が強く感じられ、説明をした担当の方は事業実施にあたり他市町の状況を何十か所も見回ったそうで、その志の高さに感銘を受けた。

また、20年、30年先を見据えつつ、今後10年間で目指す「まちなかの姿」を、市民・事業者・関係団体と共有するための指針として「にしおまちなか未来ビジョン」を策定された点は、中心市街地活性化を“行政主導”に終わらせず、“公民連携”で進めていく強い意思の表れであると受け止めるとともに、事業を進める上で、どれだけの人々を巻き込み、関係者としていくかの重要性

を感じた。

特に、西尾市公式 LINE の登録者数 10 万人超という強みを生かし、オープンチャット機能を活用して市民の声を柔軟に吸い上げようとする試みは、時代に即した新たな市民参加の形として、大いに参考になるものであった。

中心市街地の衰退という課題は、多くの自治体が直面している共通の問題であり、江南市においても決して他人事ではない。

今回の視察を通じて、ハード面の整備以上に重要なのは、「人」と「想い」を中心に据え、行政が本気で寄り添い、挑戦を後押ししていく姿勢であることを改めて認識した。

まさに、この“熱量”こそが、まちを動かす原動力であり、江南市においても最も必要とされているものであると強く感じている。

本視察で得られた知見を、今後の委員会活動及び江南市の中心市街地活性化施策にしっかりと生かし、市民・事業者・行政が一体となった持続可能なまちづくりにつなげていきたいと考える。